

いちげ 一夏会報

No.70



令和3年11月1日
発行：鶴見大学

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3
TEL.045-574-8623(ダイヤルイン)
<https://www.tsurumi-u.ac.jp>



鶴見大学 副学長
早川 徹

「コロナ禍に思うこと」

この会報がお手元に届くころには、もうすっかり秋ですね。まずは、二ヶ月にわたる司書・司書補講習、お疲れ様でした。昨年度は新型コロナウイルス感染のために講習会が開催できませんでした。が、今年は何とか開催することができました。まずは、開催にあたりご尽力いただいた関係各位や講師の先生方に御礼申し上げます。皆様方も新型コロナウイルスの感染対策で様々な制約がある中、講習に励まれ、無事終了されたことをお喜び申し上げます。

正直、昨年度、本講習会を中止にした時は、来年度は新型コロナウイルスも収まって、いつも通りとはいかないまでも、それほど大きな問題もなく開催できるだろうと楽

観的な見通しをもっていました。ところが、御存じの様にこの新型コロナウイルス感染はおさまる気配が全くありません。デルタ型、ラムダ型などの変異株も出現しました。「ウイズコロナ」、「アフターコロナ」と言う言葉があります。コロナと共生という意味合いで用いられていますが、現実にはそんなに甘くない気がします。この用語もかなり楽観的な見通しで用いられた言葉だと思っ

ています。「ウイズコロナ」、「アフターコロナ」には程遠い状況です。いざれにしろ、我々を取り巻く状況は大きく変わりました。コンピュータを使ったオンライン会議や講義などはITの進んだ将来の話と考えていました。「バックトゥザ

フューチャー」と言う映画があります。私の好きな映画の一つです。デロリアンに乗って過去に行ったり、未来に行ったり。よく考えるとおかしな所もあるのですが、楽しい映画です。その映画のパート2で、自宅の大きなモニターに社長が現れ、将来の主人公が社長から「お前はクビだ」と

言われるシーンがあります。あれは二〇一五年の設定でした。あの映画を見た当時、二〇一五年はまだまだ先の話で、未来のシーンとして見ていました。現実の進歩はあの映画より遅く、二〇一五年には少なくとも日本では自宅のモニターに社長

が出てくることはありませんでした。今はどうでしょう？ 遠い未来の話だと思っていた自宅のモニター、それがコンピュータであれ、タブレット端末であれ、スマートフォンであれ、さすがに社長が出てくることはないでしょうが、会社の上司や大学の先生が画面に出てきて、会議をしたり、講義を聞いたりすることが

できます。今回の講習でもオンラインで行われた講義もありました。戸惑いのあった方もいたかと思えます。私も学生にオンラインで講義する時に最初は何処を見てしゃべれば良いのか、かなり戸惑ってしまいました。今ではだいたい慣れましたが、それでも、講堂でしゃべるとは全く違いますが、オンライン講義や会議の利点として、移動しなくて良い、日程の調整が楽になった等が言われて

いますが、私が考える最大の利点は、今の状況でマスクをしてない顔を見て会話ができることです。我々は会話をする時はその人の目と口元をみます。マスク越しの会話は何となく不安なのは、口元が見えないからだと思います。驚いた時、恥ずかしい時、口元を隠すことがあります。口元のしぐさには感情が現われるのです。改めて気づかされました。

このコロナ禍でこれから、ITを駆使した新たなツールが、またまた出てくるのでしょうか。どんなツールが出てくるのか？ 大いなる期待と少しばかりの不安と。そういうツールに振り回されることなく、上手に付き合っていきたいものです。

初めてのオンライン授業



鶴見大学司書・司書補講習
主任教授
角田 裕之

司書・司書補講習の修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。この度、皆様が無事に講習を修了されたこと誠に慶び申し上げます。昨年度は突然のコロナ禍に見舞われ講習を中止せざるを得ませんでした。今年度は十分な感染防止対策を整えて開講いたしました。



授業風景

例えば、従来すべての授業を対面で行っていたのが、今年度は司書講習の選択である乙群科目である五つの授業をすべてオンデマンド式のオンライン授業に変更しました。オンライン授業は教室に集合することがないので密閉・密集・密接を完全に回避できるだけでなく、対面授業と同時に開講され講習期間全体が短くなり、通学の日数を少なくできます。ですが講習で実施するには、多くの課題があります。

まず講師による授業資料の作成、次にシステムの導入、そしてオンライン授業のうけかた講習を授業開始前に開講する必要がありますがありました。オンライン授業は大学で既に実施されており、十分な経験を積んだ講師が多数いたこと、大学のシステムを共用できたこと、そして、全司書講習生に向けてオンデマンド講習を用意できたことにより、司書講習でもオンライン授業が実施できました。

オンライン授業を受講されて如何でしたでしょうか。講習生のなかには、今回初めての方も多くいらっしゃいました。閉講式後のアンケートでは、「質問ができなかった」、「講習生相互の交流がでなかった」という意見もありましたが、「自分の生活に合わせて受講できた」、「繰り返し視聴できるので理解が深まった」、「通学しなくて良く便利であった」など、好意的な意見も多く寄せられました。来年度に向け更に改善して実施できるような工夫をしていきたいと思えます。

さて、講習生の皆様は鶴見大学に所属されているわけですが、大学についてあまり詳しくない方も多いと思います。そこで、大学の精神や歴史、施設、司書に縁の深い学部や学科、大学院についてご紹介いたします。本学は、仏教、とくに禅の教えにもとづいて、円満な人格の形成と人類社会に対する感謝・報恩の実践をもって建学の精神としています。この精神を、大覚円成（だいがくえんじょう）報恩行持（ほうおんぎょうじ）と表します。分かりやすく表現すれば「感謝を忘れず真人（ひと）となる」あるいは「感謝のこころ育んでいのち輝く人となる」となります。含蓄のある言葉です。また、本学は總持寺の広大な境内にあり、四季を彩る自然豊かなキャンパスです。皆様がおなじキャンパスにあります。本学の図書館は朝日新聞出版社編『大学ランキング』に掲載されている大学図書館ランキングにおいて、規模や利用、所蔵を評価され、毎年上



源氏物語

位にランクインしています。図書館には、『源氏物語』や『伊勢物語』、『曾我物語』、および、古今和歌集等の勅撰和歌集のほか多種多様な日本の古典籍をはじめ、『シェークスピア戯曲集』『ファースト・フォリオ（復刻版）』他各作品、『ロビンソン・クルーソー』や『シンデレラ』の諸作品に至るまで、多数の稀覯書を所蔵しています。

本学の歴史を顧みると、鶴見女子短期大学が認可された翌1952年には司書・司書補講習を開講しましたので、実に長い歴史があることがわかります。その後、1963年に文学部が設置され、1973年に鶴見大学に名称を変更しました。私が所属する文学部・ドキュメンテーション学科は2004年に、大学院・文学研究科・ドキュメンテーション専攻は2018年に開設されました。文学部には、他に日本文学科、英語英米文学科、文化財学科があり、すべての学科で司書資格が取得できます。また、ドキュメンテーション学科では専門科目として図書館に関する科目が多数開講されています。また、大学院博士前期課程では図書館に勤務する職員のための「社会人入試」があり、仕事と学業の両立となるため修了まで時間が係る場合がありますので、二年間分の授業料で三年間または四年間在籍できる「長期履修制度」を用意しています。大学院生には、図書館に勤務も在籍されております。司書・司書補講習で学びの楽しさを実感された方は、大学や大学院に入学生され図書館や文献・資料に関する知識や経験を一層深めては如何でしょうか。教職員一同お待ちしております。

最後になりましたが、皆様が図書館や図書等に係る仕事に就かれ、さらにご活躍されますことを期待しております。

司書・司書補講習と

45年の付き合い



鶴見大学 名誉教授
岡田 靖



H17年 開講式

私が司書・司書補講習と初めて関係ができたのは、1976年の夏の講習でした。私はその前年に図書館短期大学の助手として任官していました。図書館短大は当時国立の司書養成大学としては唯一のものでありました。私は当時まだ32歳の若僧でした。短期大学の授業とは異なり、殆どの講習生が年長者でした。そのような若造が教師面して授業をやるにはいさ

さかの抵抗を感じていました。しかし、やらないわけにはいきません。しかも科目は参考業務演習（現在の情報サービス演習）でした。若さとまだものを知らない私は臆面もなく授業をやったのです。私よりはるかに物知りのおじ様・おば様相手の授業は、今思えば冷や汗ものでした。同じ時に鶴見大学の司書・司書補講習にも出講することになりました。科目は目録法演習（現在の情報資源組織演習Ⅰ）です。この科目も熟練性が要求されます。にもかかわらず臆面もなく授業を行いました。今考ええると冷や汗ものどころではありませ



H24年 資料の整理

ん。若さともを知らないと恐ろしいものです。それから45年。ベテラン（単なる年寄り）と呼ばれるようになり、いよいよ最終段階を迎えています。この45年間常に考えてきた事が有ります。それは司書・司書補講習、大学における司書課程、ドキュメンテーション学科のような専門教育課程の関係です。鶴見大学にはいずれの課程もありま

す。この3つの課程のどこでも司書の資格を取ることができます。しかし、授業の時間数が違います。もっとも文部科学省が定めた時間数に基づいて設定されているので、司書・司書補講習と司書課程は殆ど時間数は同じ場合が多いようです。それでも司書課程の場合は各大学で独自の時間数を設定している場合もあります。かつては実習を義務付けている司書課程もありました。専門課程は言うまでもなく、単位数も時間数も多くなっています。この3つの課程で取得した資格は全く同じ資格です。かつてはこれではおかしい。その資格には違いを付けるべきではないかという意見も出ました。しかし、図書館界の

中から、資格に差をつけるのは間違えているという意見が出て、それが主流になりました。当時は私も若くて、学生運動の名残もあり、差があるのはおかしいと考えておりました。現在においてはどうかという結論はまだ出ておりません。しかし、この問題は本来図書館界でもっと議論されるべきものだと思っております。にも拘わらず、あまりこの問題についての声は聞こえてきません。決してタブーではないと思っております。自分自身で結論が出ていない問題を取り上げるのは如何なものかとも思いましたが、45年間の最終段階を迎えた今、やはりこの問題を皆様の間で少しでも話題にしたいだけならという思いで書いております。図書館短大、図書館情報大学と何れも専門大学

さかの抵抗を感じていました。しかし、やらないわけにはいきません。しかも科目は参考業務演習（現在の情報サービス演習）でした。若さとまだものを知らない私は臆面もなく授業をやったのです。私よりはるかに物知りのおじ様・おば様相手の授業は、今思えば冷や汗ものでした。同じ時に鶴見大学の司書・司書補講習にも出講することになりました。科目は目録法演習（現在の情報資源組織演習Ⅰ）です。この科目も熟練性が要求されます。にもかかわらず臆面もなく授業を行いました。今考ええると冷や汗ものどころではありませ

ん。若さともを知らないと恐ろしいものです。それから45年。ベテラン（単なる年寄り）と呼ばれるようになり、いよいよ最終段階を迎えています。この45年間常に考えてきた事が有ります。それは司書・司書補講習、大学における司書課程、ドキュメンテーション学科のような専門教育課程の関係です。鶴見大学にはいずれの課程もありま

す。この3つの課程のどこでも司書の資格を取ることができます。しかし、授業の時間数が違います。もっとも文部科学省が定めた時間数に基づいて設定されているので、司書・司書補講習と司書課程は殆ど時間数は同じ場合が多いようです。それでも司書課程の場合は各大学で独自の時間数を設定している場合もあります。かつては実習を義務付けている司書課程もありました。専門課程は言うまでもなく、単位数も時間数も多くなっています。この3つの課程で取得した資格は全く同じ資格です。かつてはこれではおかしい。その資格には違いを付けるべきではないかという意見も出ました。しかし、図書館界の

中から、資格に差をつけるのは間違えているという意見が出て、それが主流になりました。当時は私も若くて、学生運動の名残もあり、差があるのはおかしいと考えておりました。現在においてはどうかという結論はまだ出ておりません。しかし、この問題は本来図書館界でもっと議論されるべきものだと思っております。にも拘わらず、あまりこの問題についての声は聞こえてきません。決してタブーではないと思っております。自分自身で結論が出ていない問題を取り上げるのは如何なものかとも思いましたが、45年間の最終段階を迎えた今、やはりこの問題を皆様の間で少しでも話題にしたいだけならという思いで書いております。図書館短大、図書館情報大学と何れも専門大学

であり、且つ司書・司書補講習も行っている大学を経て、鶴見大学では司書課程も経験した者としてはこの問題は避けて通ることはできないと思



R1年 情報資源組織論

主題知識と図書館



青山学院大学 教授
大谷 康晴

ると思います。

同時に図書館のプロとして生きていくには自分の得意分野でなくても対応する必要があるので指摘します。自分の得意分野が仕事に求められる主題知識と合致するということとはむしろ少ないのではないかというのが私の認識です。

図書館のスタッフとしてやっていける機会があったら、まずは引き受けてみて、求められる主題知識は後から必死に覚えていくという図太い態度も必要でしょう。と、ここまで書いていて、実はいわゆる公共図書館でもいろいろな知識が求められているということを思い出しました。二十年前に視察したある町立図書館にはJIS規格が用意されていました。尋ねたところ、町内のいわゆる町工場でも多様なものづくりが求めら

れいるため、随時規格を参考する必要が生じて利用しているという回答でした。図書館に来る利用者はさまざまなニーズを抱えて来館します。図書館職員がもともと持っている知識はごくわずかであっても、最初からすべてのニーズに知識をもって対応することは困難です。勤務する図書館、部署によってさまざまな主題知識が必要となっていく

ます。司書・司書補講習では、あくまで図書館固有の知識・技能についての講義であって、利用者のニーズに対応するための主題知識は各自が習得していくしかないものです。さまざまな領域に広く関心を向けることが重要であるというのを終わりの言葉といたします。

司書・司書補講習を受講のみなさま、お疲れさまでした。今回依頼を受けて過去の『一夏会報』の内容を拝見すると行間からにじみ出る講師のみなさまの熱い思いが印象的でした。ところが、自分がそれに近いものをお見せできるかと省みると全く自信がないことに気が付きました。そこで、ここでは、私が図書館の仕事にどのようにかかわっていたのかをお話することで、文学的なものだけが図書館のすべてではないということをお伝えしたいと思います。

私は、図書館について学んだ後、日本原子力研

究所（現在は国立研究開発法人日本原子力研究開発機構）の図書館部門に就職して、データベース作成に関わることになりました。文学部出身でしたが、機関名からお分りのように全く門外漢であった理系の領域での勤務になりました。

当然、最初は目を通した資料に何が書いてあるのか全く分かりませんでした。仕方がないのでいわゆる専門事典類を見るわけですが、今度はその説明が分からないというどこまでいっても何がなんだか……という状態でした。

それでも、仕事ですら、何とか知識を増やして、対応できるようにしました。同時に職員寮にいた同年代の同期は研究職採用が大半でしたので、自然科学系の研究者について理解を深めることができました。

その後、職を辞して学生に戻った時に、パートタイムで法律事務所の図書コーナーを預かることになりました。いわゆる渉外法律事務所と呼ばれる国際性のあるビジネス法務を扱っているところで、特に金融に強いとされている事務所でした。

とはいえ、何度もうのように文学部出身で、さらに当時の私は数年の勤



コロナ禍でこそ学べたこと

金子理生



対面授業が困難な中、感染症対策を講じ司書講習を開講してくださったおかげで、司書資格取得の機会をいただくことができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、昨年来のコロナ禍で、多くの公共図書館は休館を余儀なくされました。図書館は不要不急のサービスなのか、否か。図書館の存在意義について考え悩む状況に直面しました。社会的にも図書館の役割が問われたこの時期に、図書館情報学の基礎を学べたことは私にとって大きな意味がありました。今年度は、市松状の座席指定、会話は避け、昼食は黙食：というよそよそしい雰囲気の開講し、2か月のハードな講習を孤独な環境で乗り切

れるのかと不安もありました。しかし、授業内での意見交換や、レポートの共有などで他の受講生の考えに触れることができ、徐々に打ち解けることができました。司書という同じ目標を持つ仲間

の意見は大変刺激になりました。レポートや試験に追われる日々を乗り越えられたのも、クラスメートの存在があったからです。また、受講生はバツクグラウンドも様々で、色々な考え方があつたことに気づくこともできました。私はこれまで図書館に関する専門知識を持たずに勤めてきました。講習のやり取りは、概論、各論、演習が体系的に組まれていて、順序立てて学ぶことができます。授業の一つ一つが、これまでの仕事の意味と仕組み



司書講習を終えて

廣岡千尋



新型コロナウイルスの感染者も増加し、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言が神奈川県はじめ、主要都市圏に発出される中、2か月間の鶴見大学の司書講習を受講しました。講義の中には、例年であれば、受講者同士のグループワークを実施し、学びを深める機会が数多く用意されていた

のだらう、と残念に思うこともありました。しかし、このような状況下で、無事に講習が終了したことは、大学事務局の皆さんや先生方のおかげだと思っています。

新型コロナウイルスの感染や情報を求めて図書館へ向かい、時にはその手助けを図書館員の方にしてもらいながら、新たな知に会い、学びを深めてきました。しかし、図書館自体の意義、背景、施策の理由などについてこれまで深く考えたことがありませんでした。そんな私も、講習を通じて、図書館・司書の役割の一端を知ることができ、本

し、このように環境を整備したりという役割だけではなく、より能動的な学びの動機を与えるという点でも、図書館員は重要な役割を担っているのだと思うようになりました。また、図書館で働くことへの具体的なイメージも持つことができました。「学ぶこととは内面的変化から生じた行動の変化である」ということが生じているのだと思



遠回り

鳥海 陽美



私は、受講直前まで都内の百貨店で婦人服の販売員をしておりました。なぜ司書補講習を受講したのか、個人的なお話で恐縮ですが、折角の機会ですので「事例として皆様に紹介させていただきます。学ぶ意義を見つかるまでの現実逃避と遠回りの話です。」

高校時代に学校や勉強に対して斜に構えたまま大学に進学した結果、勉強が解らず残念ながら1年で中退しました。その後3年間複数のアルバイトをしながら留学やボランティアなどを通して自分の興味を探りましたがそれも分からず、漠然とそのままフリーターとして生きていくことに不安を覚え、専門学校に入学しました。卒業後は就職し愉しく働く最中、新型コロナが蔓延し世情が一変しました。

安定したと思っていた自分自身の考えも揺らぎ、正解が無い日々戸惑う中で、多様な人々が生きる社会での様々な問いに、自らの答えを出すための学びを求める気持ちが芽生えました。そのような思いを支えてくれる図書館や多くの学びに触れるであろう司書について知ることが、何か私が生きる上でヒントをくれるかもしれない、まさに私にとって司書補講習は生涯学習の一環でした。

学習とは、どのような行動をするか判断するため、基礎的な価値観の変容だと学びましたが、理論だけでなく実学として為になる発見もありました。情報検索ツールや関係法、図書館の歴史や現代の諸問題に対する取組みなどです。多くの魅力的な図書や施設を教えてくださいました。

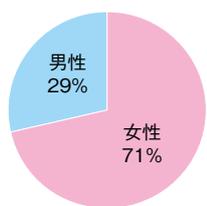
見大学の立派な図書館で幅広い資料に触れることもできました。印象深いのは授業の中で、「校」という字は「くらべる」「かんがえる」という意味があると教わったことです。学校とは、学び、比べながら考え、自分自身を定めていくところなのだと思え、正解を教えられるところではないと確信できたことで前へ進める気がしたからです。私は分らなかったのではなく、定められなかったのです。

経験を生かすも殺すも今後の自分次第ですが、非常に有意義な機会となったことを、講義を作ってくださいました講師の皆様、運営・事務・警備の皆様、共に学んだ受講生の皆様に感謝いたします。未曾有の事態の中、本当に有難うございました。

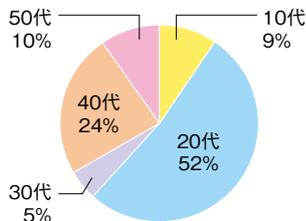
令和3年度司書補講習 アンケート集計結果

(回答数/受講数=16名/21名)

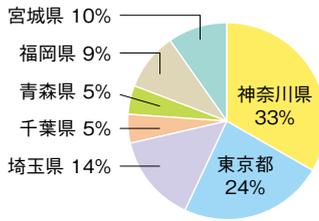
男女別データ



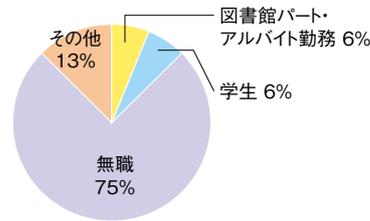
年齢別データ



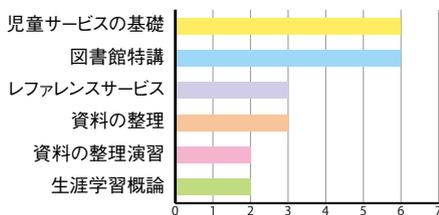
出身県別データ



職業別データ



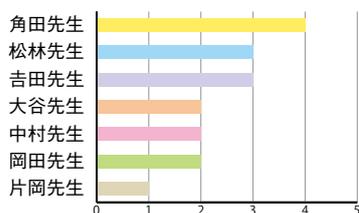
印象に残った科目(複数回答)



【主な理由】

- 児童サービスの基礎…多言語の読みきかせなど貴重な体験をさせていただきました。また、色々な方の読みきかせで絵本や読みきかせの良さを感じることができ、とても楽しく学ぶことができました。この経験を図書館や生活にも活かしていきたいと思えます。
- 図書館特講…ずっと「図書館」が軸になった授業内容だったが、少し視点が違う書籍に関する内容が面白く、新鮮に感じた。普段見ることのない古典籍に実際に触ることができたのが、良い経験だった。
- レファレンスサービス…紙媒体から情報を集めるのが、とても難しかったので。適切な資料を選ぶことの難しさも痛感しました。

印象に残った講師(複数回答)



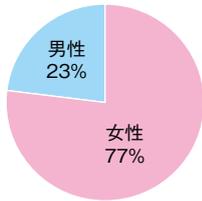
【主な理由】

- 角田先生…説明もわかりやすく、情報活用のスキルも高めることができました。授業の合間に先生作成の世界の図書館のムービーを見せていただき、コロナ禍で沈みがちな気持ちも癒されました。
- 松林先生…ご用意下さった資料は、PDF、紙資料、先生が撮られた写真などで、授業が単調にならず見入るものだった。わからない所は、持ち帰りますよという、次回には冒頭で「調べてきました」と話して下さり、誠実さを感じました。
- 吉田先生…実習は大変でしたが、先生とお話でき楽しかったです。
- 大谷先生…授業で集めた質問にたくさん回答していただけたことが印象的でした。

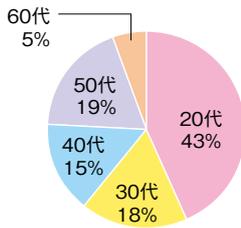
令和3年度司書講習 アンケート集計結果

(回答数 / 受講数 = 76名 / 91名)

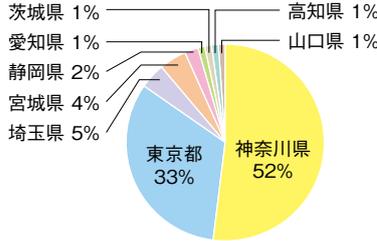
男女別データ



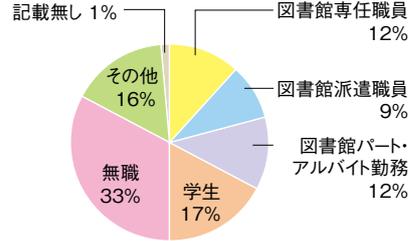
年齢別データ



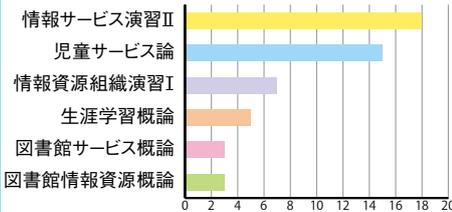
出身県別データ



職業別データ



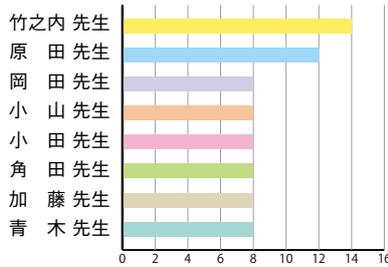
印象に残った科目(複数回答)



【主な理由】

- **情報サービス演習II**…理論から実践に入る授業で一番苦労したが、一番楽しい授業だった。この演習を通して色々な方と話さきっかけがあり、色々な方とコミュニケーションをとれるようになった。
- **児童サービス論**…絵についてのお話や、実習としての読み聞かせはとてもためになるものだった。絵本の読み聞かせを行ったが、学生時代ぶりに絵本を読んだので、懐かしくも新鮮な経験だった。
- **情報資源組織演習I**…とても丁寧に教わり、図書館勤務未経験だけれど考え方を理解できた。理論と演習のバランスが丁度良かった。
- **生涯学習概論**…学ぶということの本質について教えていただいたことがとても印象に残っています。最初に生涯学習概論を受けることができてよかったです。

印象に残った講師(複数回答)

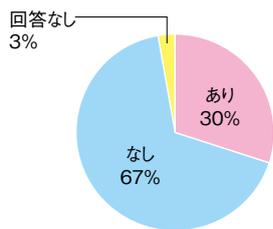


【感想】

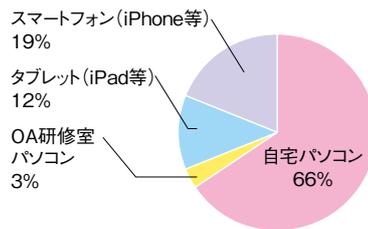
- **竹之内先生**…分類という難しい科目にも関わらず、海外の図書館を色々と見せてくださったり、絵本のセラピストである先生がステキな絵本を読み聞かせしてくださったり、とても楽しく受講することができました。質問についても毎回優しく答えてくださり、頑張ることができました。
- **原田先生**…講義中の解説や説明がとても分かりやすかった。また受講生の質問に気さくに対応している姿が印象的でした。
- **岡田先生**…話がおもしろく、簡単な演習も取り入れてくださり、その後の演習への心構えができてよかったです。
- **小山先生**…授業内容が凝縮していて、ベースが早かったですが、充実した内容だと感じました。manabaにおいて、補充の資料が添付され、理解への助けになりました。また、双方向性はかろうとされているのだなとも思いました。

令和3年度司書講習 オンデマンド授業について

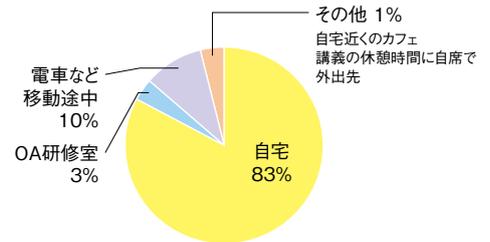
講習以前のオンライン授業経験



受講したときのツール



受講の視聴場所



【配信期間について】

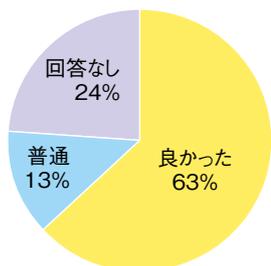
- 対面での授業と配信が重なっていて大変だった。期間は丁度いいと思う。
- 並行して他の授業もあったので短いようにも感じましたが、あまり長くても後回しにしてつらくなると思うので、適当だったと思います。
- 週6で通いながらオンデマンドは時間が足りない。合格通知～開講式の間に受講できるシステムがあれば有難いです。
- ちょうど良かったです。あれより短くされると困るので、変えないでほしいです。
- 後半は他科目との重なりが大変でした。
- 丁度良い期間でしたが、対面講習と並行して行っていたので、余裕がありませんでした。

【オンデマンド授業の感想】

- 科目によってはとても有効だと思います。図書館史を選択しましたが、写真などまじえてあり、見やすくて、くりかえし視聴しながらPCレポート(講義記録)をまとめられる点で、これからの授業のあり方かと思いました。質疑のレスポンスがもっとあればよかったです。
- オンデマンドのシステムは、これからもこのように質の高い状態で続いてほしいと思います。
- YouTubeは、再生速度の選択が可能だったので聞き取りやすいスピードで学べたが、速度の変更ができない音声授業があり、私にとってはゆっくりすぎて、聞きにくいと感じました。
- 試験ではじめて講師のお顔がわかったものの、試験なのでそのまま終了になるのはちょっとさみしい感じがした。
- オンデマンド授業は初めてだったが、受講した科目の先生がしっかり準備してくださっていて、特に問題はなかった。倍速で再生が可能なので、聞き取れる範囲で効率的に授業が受けられて良かった。
- 自分のペースで学習できて良い。動画の配信があるとより良い。

令和3年度 特別講座について アンケート集計結果

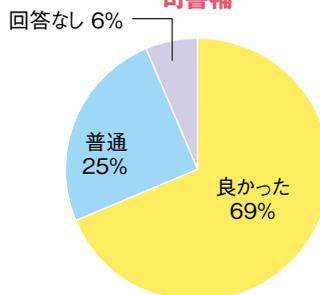
司書



【主な理由】

- 最後に全ての検索のまとめとして聞くと、授業の時に聞いていた時より、演習で使ったばかりなので、納得しながら聞くことが出来て、学びが深まった。
- これから先の試験がまだあるのだと、今後の長い人生の中で目標をたてるきっかけになった。
- 全ての講義が終わって、改めて検索についてのお話だったので、演習の内容を反省でき、これからの仕事にも改めて役に立つ内容だった。
- 検索検定うけます！
- 実際に図書館司書として働く際に活用できる内容でした。

司書補



【主な理由】

- 検索は苦手意識があるので難しく感じてしまいます。先生の検索デスクがすごかったです。便利そうでしたが、自分で構築出来る気がしませんでした。たぶん、パソコンスキルを上げなければいけないと思いました。情報資源のいろいろまとめてあってありがたかったです。
- 情報サービスの授業の復習にもなったし資格検定の案内もあったので、今後の学習に活かしていきたいです。
- 授業でも学んだ検索に関する注意点やスキル、持っておくべき知識などを再確認でき、講習で学んだことの復習や新たな勉強をすることも必要だなと思いました。

..... 司書講習生の感想

- コロナ禍で先生方、事務の方、大変なご苦労があったと思いますが、色々気を配って頂きありがとうございます。大学会館は駅まで近く、コンビニやドラッグストア、マックなど便利な店が近くあって大変助かりました。ほとんどの授業が大学会館内で行われ、昼食会場も館内に用意して頂いたので助かりました。
- 2ヶ月間集中して講義があるので、本当に大変だったが終わってしまうと淋しい。講師の先生方は色々な工夫をした授業をして下さり楽しかったです。
- 漠然としたイメージしかない中で受講した講習でしたが、楽しかったです。司書という資格・職業以外でも役立つようなことも多く、非常に興味深い学びの日々でした。大変な課題もありましたが、乗り越えたことで自信にもなりました。ありがとうございます。
- 大変だったけど勉強になりました。久しぶりに学生に戻って勉強しました。学校で働いていたのですが、生徒はこういう気持ちなのだということが実感できました。リカレント教育の実践者になれたと思います。
- 伝統と実績のある講習をこれでもかと言う程に味わいました。コロナのこともあり、おかげでより緊張感のある日々だったと思うが、終わってみると本当にあっという間でした。合否の結果を抜きにして、ということは不可能ですが、この講習のおかげで少しは自己の成長ができたような気がします。長くも短くも濃密な日々でしたが、本当にお世話になりました。ありがとうございます。
- 大学図書館と会館の往復と資料媒体を運ぶ際に生じる重量により、頭だけでなく体も鍛えられた2ヶ月半でした。各職員さんの教えと助けが無ければ過ごせなかった健康的講習生活をありがとうございます。
- それぞれの授業をふり返ると、先生方の顔が浮かび、今となれば懐かしく思い出されます。学校を卒業して以来、これほど学びの深いことは久々であり、人生で1番勉強をしたかもしれません。2021年の夏は、オリンピックでもパラリンピックでもなく、暑い暑い司書講習の夏でした。最後の演習の1週間は、曜日が分からないぐらいハードでした。ありがとうございます。
- コロナ禍の授業であったため、仕方なかったと思いますが、グループワークでの授業を取り入れてほしかった。普段業務で気付かなかった視点などを学ぶことができ、有意義な2ヶ月を過ごすことができた。
- 事務の方々ははじめ先生方サポートをありがとうございました。出席カードには、なかせました〜。

..... 司書補講習生の感想

- 先生方の講義の一つ一つが新鮮で、沢山の事を吸収させていただきました。目録の正式な書き方、分類番号の付与の仕方や細かく分類する方法を学べました。改めて、学んだ知識を活かしたいと思います。
- コロナ禍で大変な中、様々な工夫をして、講義を行っていただきありがとうございます。恐らく、例年とは違う形の講義がほとんどだったのでしょうか、受講生への配慮を実感することができました。この1ヶ月で学んだことを生かして今後の勉強、職務に励みたいと思います。
- 全体を通して大変でしたが、1つ1つの講義がとても楽しく大きな学びのある講習を受けることができました。コロナ対策にも気を配っていただき、安心して授業を受けることができました。この講習で学んだことを活かして、これからも図書館に関わっていく努力を続けようと思います。本当にありがとうございました。
- スケジュール的には、とても厳しい部分もありましたが、無事一日も休まず、楽しく有意義な40日間を過ごせたと感じます。コロナ禍で職員の方々も大変苦労されたかと思いますが、グループワークがなかったこともあり、受講生同士のコミュニケーションの輪があまり広がらなかったことは、少し残念に思いました。
- 対面で今回受講でき、とても良かったです。1ヵ月少しという期間でしたが、同じ目標を持つ皆さんと学べて楽しかったです。
- 緊急事態宣言の中、対面授業を実行いただき感謝申し上げます。また、事務局他、関係者の皆様ありがとうございました。

司書・司書補講習の歩み

鶴見大学の司書・司書補講習は、昭和29年(1954)に開講しました。その間、著名な多くの先生方のご指導の下、優秀な修了生を輩出し、本学の講習は成長してまいりました。そして、開設時の昭和29年に講習生の会として「一夏会」が発足したのがこの会報の由来となっております。平成9年には大学会館での講習がスタートし、JR鶴見駅から徒歩3分という恵まれた環境で講習を行うことができるようになりました。約60台のパソコンからなるOA研修室や85万冊にも及ぶ質の高い蔵書群を所蔵しコンピュータを駆使した高度な情報提供機能を持っている本学図書館の使用など、時代のニーズにふさわしい講習を行っております。また、令和3年はコロナ禍の中での開催となり、オンデマンド授業を取り入れました。

本学司書・司書補講習は、これらの歴史と数多くの優秀な修了生を誇りに今後ますますの発展を期して努力してまいります。

司書・司書補講習受講生の皆様へ

アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。皆様のご意見を参考に、今後もより良い講習にしてゆきたいと思っております。また、この「一夏会報」を刊行するにあたり、原稿をご執筆いただきました先生並びに受講生の方々に深く感謝申し上げます。

昨年は講習が中止となり、今年はコロナ禍の中の開催となりました。受講生の皆様には、多くのご不便をかけながらも閉講式を迎えることができました。ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。無事に終了されたこと、この状況の中で頑張られたこと、誠に嬉しい限りです。ここを乗り越えられた皆様のこれからの活躍を楽しみに応援しています。真夏の暑い中、2ヶ月間お疲れ様でした。